

橋梁研新聞

大阪市大

令和3年
8月発行
同窓会号

最近の研究室

令和3年3月に有村様（オリエンタルコンサルタンツ）、杉本さんは後期博士課程を修了しました。4月には山下様（ヒノデホールディングス）が社会人ドクターに入学しました。また、学部4回生6人、研究生1人が新たに加わり、総勢〇〇人の大所帯となりました。コロナ感染拡大防止に努めながら、工夫して、日々、研究室にて研究活動を続けています。現在は、大学院の院試、構造工学論文集の執筆、修士論文に関する実験、解析を精力的に行っています。



令和3年度 第一回橋梁研ゼミ

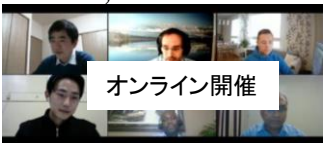


令和3年度 ボーリング大会

海外活動

EASEC 19: BRISBANE
オーストラリアのブリスベンで開催され、研究室からは社会人ドクターの岑山様（駒井ハルテック）、松本様（建設技術研究所）、浅野さん、佐倉さんが参加しました
IABSE 20: CHRISTCHURCH

（20年2月3日～5日）ニュージールランドのクライストチャーチで開催予定でしたが、COVID19の影響でオンライン開催となり、研究室からは神野さん、大浦さんが参加しました。



オンライン開催

研究テーマ紹介(令和三年度:MI~D3)

補修・補強

高力スタッドボルトを用いた当て板補強工法の疲労強度および荷重伝達機構に関する研究
鋼材を用いた橋梁部材の取替え工法に関する研究
高力ボルト間隔に着目した鋼桁腹板の当て板断面補強に関する研究
鋼桁高力ボルト摩擦接合継手のすべり・変形支圧限界に着目した限界状態設計法に関する研究
摩擦用一支圧用高力ボルトを用いたハイブリッド継手に関する研究
摩擦接合と支圧接合を作用させた片面施工ボルトの引張挙動に関する研究
ファイラーを有する高力ボルト摩擦接合継手のすべり後強度に関する研究
双皿型高耐久性高力ボルトセット(ダブルスピンドルフアスナー・DSF)の開発
接合面に接着剤を塗布した高力ボルト摩擦接合併用接合の簡易設計法に関する研究
スロット孔を有する高力ボルト摩擦接合継手に関する研究
29年間供用した高力ボルト摩擦接合継手部の性能照査に関する研究
鋼桁の突出部を有する引張接合部における解析的検討

継手

全橋解析

橋梁応答モニタリングによる既設ゲルバー橋ヒンジ部の変状評価に関する研究
桁端部腐食損傷時の鋼板桁橋各構成部材が有する荷重分担システムに関する検討
鋼コンクリート合成床版に適用する底鋼板継手の構造提案に関する研究
球状黒鉛鉄を用いた道路橋床版の実用化に関する研究



押し抜き試験



合成床版疲労試験

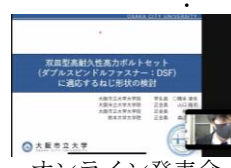
2022年 大阪公立大学 始動

2022年春より、大阪公立大学は、大阪府立大学と統合し、大阪公立大学へ生まれ変わります。工学部は、現6学科から、12学科となります。工学部都市学科のキャンパスは、2026年年度を目標に、現大阪府立大学キャンパスの中百舌鳥キャンパスに移転する予定です。それまでは杉本キャンパスのままです。さらに詳しい情報は、下のQRコードからご覧ください。

更に詳しくはこちら

2021年度土木学会 関西支部年次学術講演会

令和3年5月23日に修了の学会発表で、質疑応答士1年生5名に苦戦しつつも、良い経験が投稿をした論文のプレゼンテーションをオンラインで行いました。福辻さんが優秀発表賞を受賞しました。おめでとうございます！



オンライン発表会

博論公聴会

令和3年2月12日に後期博論の非突出型エンドプレート接合の設計法に関する研究」と社会人ドクター有村様「腐食劣化の生じた鋼桁橋の橋梁システム元長性を考慮した合理的な耐荷性能評価手法に関する研究」、8月6日に郎さん「新型高力フアスナーを活用した鋼橋の補修補強技術に関する研究」の博論公聴会がオンラインとオフラインを併用して行われました。

ぶら土木

大学公認サークルとして活動している土木構造物見学サークル「ぶら土木」も今年で4年目となりました。今年度は、「新名神高速道路、成合第一高架橋工事」にて片持張出架設工法を橋面に登り、見学させていただきます。また、「震災資料保管庫」での阪神淡路大震災で被災した構造物を見学させていただきました。ぶら土木サークルでは、現場などの見学先を探しています。お進めの場所がありましたら是非、ご紹介下さい。お待ちしております。

今年の就職先(令和3年4月入社)
JFEエンジニアリング、宮地エンジニアリング、横河ブリッジ



新名神高架橋工事 震災資料保管庫